

まつえ 市議会だより

No. 34

2017
11月定例会

MATSUE CITY COUNCIL NEWS LETTER



あなたの思いを届けたい

16人の議員が質問

P3~6

全国各地体の先進・好事例に学ぶ

各常任委員会が行政視察を実施

P8~9

松江の元気な 子どもたち



【お姉さん ズボンをはかせて】

松江市立城東保育所では、いろいろな場面で異年齢交流を楽しんでいます。

みかん組（1歳児）さんが、ぶどう組（5歳児）さんに手伝ってもらってズボンをはいています。



11月定例会

平成29年11月29日～12月19日

4月にスタートする 中核市に関する条例ほかを可決

11月定例会は、一般会計2件、特別会計8件、公営企業会計10件、計20件の平成29年度補正予算案のほか、条例案件85件、一般案件13件など、議案118件を審議し、全て原案可決しました。
また、議会から提出された委員会提出案件2件、議

員提出案件2件を審議し、原案可決しました。
一般質問には16名の議員が立ち、中核市関連、介護、子育て支援、産業振興策など、さまざまな分野で論戦をくり広げ、市長及び執行部の見解を問いました。

平成29年度補正予算（主なもの）

一般会計	17億3,049万円の補正（補正後の総額964億606万円）
ジオパーク推進事業費	1,500万円
公立保育所運営費 他5事業	1億6,914万円
放課後デイサービス事業費	1億2,701万円
義務教育学校移行準備経費	247万円
地場農産物生産・消費拡大推進事業費	102万円
地域水産振興事業費	967万円
本社機能移転・拡充促進補助金	2,499万円 など

条例の制定・改正（主なもの）

松江市立病院人材育成基金条例の制定について

・松江市民より、匿名で寄付（5000万円）を頂いたことから、寄付者の意向に沿って松江市立病院の人材育成を図る経費に充てる基金を設置するため、条例を制定するものです。

学校教育法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について

・「義務教育学校制度」が創設されたことを受けて、関係する条例を見直しました。あわせて、松江市立八束小学校と松江市立八束中学校を廃止し、松江市立義務教育学校八束学園を新たに設置することになりました。

松江市保健所設置条例の制定について

・中核市移行に伴い、島根県と共同で保健所を設置するための条例を制定しました。名称を「松江市・島根県共同設置松江保健所」とし、平成30年4月1日から施行されます。



〈12月22日 日本ジオパーク認定を祝い懸垂幕を設置〉

委員会・議員提出案件の審査結果

件名	結果
委員会提出議案 第7号 松江市議会政務活動費の交付に関する条例の一部改正について	原案可決（全員）
委員会提出議案 第8号 松江市議会政務活動費の交付に関する規則の一部改正について	原案可決（全員）
議員提出議案 第9号 小中学校におけるプログラミング教育への支援を求める意見書について	原案可決（全員）
議員提出議案 第10号 小中学校へのエアコン設置に係る補助の予算を拡充することを求める意見書について	原案可決（全員）

市政のここが聞きたい 16人の議員が質問

11月定例会 一般質問

11月定例会では、12月4日から12月6日までの3日間にわたり一般質問を行いました。
質問をした議員本人が通告した項目の中から一つ選び、要旨をまとめたものを掲載しています。



のつ 野津 照雄
会派代表質問（松政クラブ）

- ・衆議院選挙の結果とその後の国の動き、地方創生について
- ・中核市指定について
- ・中海振興について
- ・大橋川改修について
- ・宍道湖大橋川水質環境、水草、藻
- ・ホーランエンヤについて
- ・シンガポール、韓国訪問について

質問 地産地消の推進で、食と経済循環を連携させ、産業振興をすべき

松江市の農林水産業や中小企業の支援は地方創生の切り札で、食や経済の循環は市長が提唱している地産地消の考えとも一致する。松江市でもこれを頑張ろうとする動きがある。地産地消推進による地元の農林水産業や中小企業の振興、今後の支援策について伺う。

回答 推進計画を年内に策定し、中小企業振興条例の制定など検討したい

地産地消、循環型の社会、経済を政策の柱に据えたい。農林水産業の分野でも松江市地産地消推進行動計画検討会議を設置し、計画策定に取り組んでおり年内に取りまとめたい。また、中小企業の分野においても中小企業同士の連携はもとより、農林水産業、金融機関等々の連携も大事であり、松江市独自の中小企業振興条例の制定など検討してまいりたい。



かわしま みつまさ
川島 光雅
会派代表質問（真政クラブ）

- ・来年度の予算編成について
- ・総合戦略について
- ・介護保険事業について
- ・マイナンバー制度の進捗と取り組みについて
- ・農業・農村の維持振興について

質問 認知症対応型共同介護サービスの拡充が必要ではないか

認知症高齢者のうち日常生活自立度2以上の高齢者は6割以上占めている。介護計画では596人の定員を確保計画しているが、今後高齢者の増加に合せて割り出すと652人の入居が必要と思われる。7期計画においては認知症対応施設の拡充を求める。



回答 待機者の増加もあり拡充は必要不可欠

現在、市内の対応施設は38事業所、定員は593人。平成29年度の3ヵ年調査で218人の3.5%の増である。待機者は107人から207人と増えており、グループホームの拡充は必要不可欠のものと考えている。

※会議録は松江市議会ホームページでご覧いただくことができます。



のつ 野津 直嗣
会派代表質問（松政クラブ）

- ・超高速鉄道の整備促進
- ・2029年の国体誘致
- ・待機児童対策
- ・松江モデルの就学前、幼児教育への挑戦について
- ・小学校の存在意義や守る事
- ・市職員も含めた人材育成
- ・地域おこし協力隊

質問 「松江モデル」の就学前・幼児教育に挑戦する考えはあるか

0歳～6歳については文科省と厚労省の縦割り行政となっている。子どもの未来にしっかり責任を持ち、子育て環境日本一を目指す全国でも稀な「松江モデル」の就学前・幼児教育に挑戦される考えはあるか。

回答 「松江モデル」の就学前・幼児教育にぜひ挑戦したい

松江は60年前に幼稚園の先駆的な事業を行ってきた経緯がある。0歳～3歳は保護者支援を通して充実した家庭教育と愛着形成の推進を、3歳～6歳については体験を通じたふるさと教育や小学校教育への円滑な接続という柱を立て、プログラム化したい。市民の皆様と一緒に頑張ってぜひ現代版「松江モデル」の就学前・幼児教育について挑戦したい。



もりもと ひでとし
森本 秀歳
会派代表質問（市民クラブ）

- ・次期学習指導要領改訂
- ・小中一貫教育の検証
- ・教職員の増強
- ・特産品のブランド化
- ・中小企業振興条例の制定
- ・今冬の除雪対応準備状況

質問 「ものづくりに関する条例」についての検討状況は

ものづくりに関する条例の制定について、これまで質問してきた。商工会や商工会議所と情報交換を行いながら検討していく考えをしめされていたが、情報交換されたのか。情報交換の中でどのような意見が出されたのか。また、検討され、その結果どうであったのか。

回答 本市の特色を活かした条例制定に向け検討を始める

商工会議所、商工会、金融機関等と、地域経済振興や雇用確保の観点から意見交換を重ねてきた。県条例も踏まえて、本市の特色を活かした産業振興策につながる必要があるとの意見があり、この意見を踏まえ関係者を変えて、条例制定に向け検討を始めていく考えである。



は せ が わ し ゅ う じ
長谷川修二 (公明クラブ)

- ・滞在型観光の振興について
- ・介護保険事業計画(第7期)策定状況について
- ・読書の推進と、子どもたちと電子メディアとの上手な付き合い方について
- ・防災対策と消防体制について
- ・男女共同参画について

イルミネーションを活用した松江らしい

質問 夜景をプロデュースしてはどうか

滞在型観光を伸展させる施策として大橋川兩岸と宍道湖兩岸、玉造温泉街を中心に、季節により様々に変化するイルミネーションを活用した松江らしい夜景をプロデュースすることを提案するがいかがか。

専門家の意見を伺いながら

回答 今後夜景について検討していきたい

夜景観光は、仕掛けも含めて行うことによって大きな松江の滞在型観光の主役になっていくものと思う。ライトアップは極めて大事だと思っており、トータルなデザイン、見どころの演出、例えば夜景ランキングへの選定などで松江の夜景をブランド化して観光客に伝えて行くためのプロモーション戦略も必要になってくる。これらを行うためには、やはり丸々もとお氏のような専門家の意見を伺いながら今後夜景について検討していきたい。



み し ま す す む
三島進 (松政クラブ)

- ・山陰整備新幹線について
- ・中核市移行に伴う財政への影響
- ・小中学校の教職員の人事権移譲
- ・予算の執行状況について
- ・税制の見直しについて
- ・嫁ヶ島について

浸食が進む嫁ヶ島の護岸や鳥居、

質問 大灯籠、石碑の整備が必要

嫁ヶ島の西側護岸は強風時に消波石を越えて高波が打ち上げられるため、土砂の流出がひどく、浸食がかなり進んでいる。また鳥居や大灯籠、石碑は献納されたとても重要なものだが、いずれも建設から100年が経過しこちらも浸食され大変傷んでいる。歴史と文化のある嫁ヶ島を維持管理し、守っていただきたい。

所有者や国県、専門家などと協議して

回答 具体的な検討を始めたい

指摘のとおり浸食の激しい西側護岸は大変重要であり、また鳥居、大灯籠及び石碑も嫁ヶ島や松江への深い思い入れが詰まった文化的な遺産である。所有者や国県、専門家などを交え対策を協議していきたい。



※会議録は松江市議会ホームページでご覧いただくことができます。



た な か は じ め
田中肇 (共産党市議団)

- ・市長の政治姿勢
- ・原発問題
- ・生活困窮者自立支援制度
- ・市民の生活と公共施設料金の値上げ
- ・中核市移行と身近な自治
- ・待機児童問題と青少年対策
- ・学校統廃合と地域振興
- ・教職員の超過勤務問題
- ・総選挙投票率

身近な自治を支える集会所の役割を重視し、

質問 賃借家賃にも補助をすべき

集会所は、身近な自治を支える重要な役割を果たしているが、集会所を賃借する場合の家賃には、現行の制度では補助がない。市の中心部に多いと思われる、このようなケースにも支援が必要ではないか。また、空き家や空き店舗を集会所に利用することも検討に値すると考える。集会所の運営支援に関する現状と今後の支援の拡充の見通しを伺う。

自治会活動の発展に有効であり、

回答 導入に向け検討を進めている

集会所の賃貸借に関する支援制度については、調査研究を行ってきたところである。地域の空き家や賃貸物件を集会所として活用することは自治活動の発展に有効であることから、導入に向け、検討を進めている。



の の うち ま こ と
野々内誠 (松政クラブ)

- ・経済委員会の行政視察から先進事例を学ぶことについて
- ・9月の台風18号豪雨の教訓を活かすことについて
- ・待機児童対策について

質問 育児休業と事業所への協力要請を伺う

休職して安心して子育てするためには、育児休業中の手当てとしての育児休業給付金と復職後を約束する企業の協力が欠かせない。柔軟な企業の対応があれば保育所入所児童数を減らすことができる。

商工団体に加入する事業所はもとより未加入の小規模事業所にも理解を進めて協力してもらう必要がある。事業所への協力要請をどうする考えか伺う。

回答 育児休業しやすい環境づくりを進める

育児休業を取得することが待機児童を発生させない一つの要因になると我々も考えている。育児休業制度の規定を設けている従業員30人以上の事業所の育児休業の取得は90%前後だが、それ以外は68.9%となる。育児休業は長い目で見た場合企業にも大きなメリットがあるので、小規模事業所にも理解を得るよう、関係者で検討の場を設けて取り組んでいきたい。



き た に ま い
貴谷麻以 (真政クラブ)

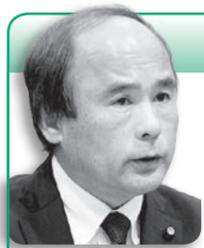
- ・高齢者の交通について
- ・敷地内や実家近辺のUターン者、市内居住者の家屋建築の推進策について
- ・保育園の待機児童数と不承諾児童
- ・高齢者福祉施設、また日常の課題
- ・無形民俗文化財について
- ・ジオパーク、文化政策の展望
- ・原子力防災・防災について

質問 高齢者への交通行政は

高齢者の方々が「医療機関に通えない」「ゲートボール場に辿り着けない」「免許を返納すればどうやって暮らしたらいいのか」等困っておられる。年配者の交通問題は市内全域の喫緊の課題である。高齢者の交通実態やオンデマンド交通の展望は。また福祉の観点からはどうか。

回答 バス、自治会輸送、福祉支援の総合で

市内70歳以上の方の1万人アンケートでは半数が自家用車を持っておられない。免許を自主返納された方は9割が公共交通に頼っておられる。バス輸送には限りがあるので、オンデマンド方式の自治会輸送のイニシャルコストについて研究、支援したい。今年度、政府から高齢者の交通手段充実のために介護保険法や道路運送法による指針を改正する方針が示された。詳細は未定だが共助、福祉共に総合的に検討していきたい。



た く の けん じ
宅野賢治 (友愛クラブ)

- ・高齢者福祉計画
- ・所有者不明土地対策



質問 事業者への支援・指導監査体制強化を

介護利用者・事業者が増加する中で、指導監査が追い付かなくなると推察する。良質な介護サービスの提供を確保するためには、介護サービス事業者の自助努力と行政による様々な支援や指導が不可欠である。中核市移行を機に「指導監査課」を設置し、事業者への支援・指導体制を充実確保して強化することが必要ではないか。

回答 組織・人員体制の強化を検討している

平成29年6月の組織改編において、福祉全般にわたる制度等、情報収集や連携調整を行いやすくすることなどにより、指導監査の機能強化を図ったところであるが、平成30年4月には、中核市移行に伴い、新たに障がい者支援施設などの指導監査が移譲されることもあり、そうした新規業務を含めて執行するための組織・人員体制の強化について、只今、検討しているところである。

※会議録は松江市議会ホームページでご覧いただくことができます。



よ し ぎ け い こ
吉儀敬子 (共産党市議団)

- ・農業と自由貿易協定
- ・日本原燃の六ヶ所施設
- ・防災・減災型公共工事
- ・ごみ減量化対策
- ・介護保険
- ・揖屋馬淵線の土壌調査

質問 ごみ袋の無料配布実施を

市は、燃えるごみ袋の値上げでリサイクル率をあげるのではなく、市民にごみの実態を知らせ、減量・リサイクルすることが解決策であることを学習する場を作り、市民とともにごみ問題に取り組む姿勢が必要ではないか。低所得者、子育て世帯、障がい者や介護保険対象者には、無料ごみ袋を配布すべきではないか。

回答 ごみ袋無料配布も検討

公共料金審議会からも、市民や事業者に対して積極的に啓発を推進すべきと意見をいただいている。今年度末には「資源とごみの分け方・出し方ガイドブック」を全面改訂して全戸配布する。

ごみ手数料値上げに当たっての配慮として、子育て世代・要介護者・高齢者を対象としてもやせるごみ袋の無料配布も含め、支援策を検討している。



よ ね だ
米田ときこ (松政クラブ)

- ・待機児童対策について
- ・高齢者対策について
- ・市立病院の役割について
- ・学校再編計画について

子ども・子育て支援事業計画の進捗状況と

質問 評価、計画改正への反映について

子ども・子育て支援事業の進捗状況及び評価と計画の改正に反映させるのか伺う。在宅で育児する保護者特に0歳児から1歳までに在宅育児手当などの支給の考えはないか伺う。

計画値が乖離し見直し検討する。

回答 年度中途の待機解消を目指す対策とする

計画では出生数は減少し、保育ニーズは平成25年水準を維持する計画のため、入所できない子どもが増加した。計画と乖離が生じた為、実態に即した計画値に見直す。また、在宅で育児中の保護者への支援は、一時保育事業やファミリー・サポート事業など現在実施中の事業を皆さんに利用いただけるよう周知を図って行きたい。一時保育利用券や在宅保育手当等の助成は現段階では検討していない。



おお た さとし
太田 哲 (公明クラブ)

- ・新庁舎建設について
- ・空き家対策について
- ・不就労者・ひきこもり者の自立支援社会復帰について
- ・高齢者の安全・安心について
- ・いじめ問題について
- ・防災士について
- ・松江城周辺の観光について

老朽化による倒壊する危険な特定空家の

質問 件数及び解体助成制度の導入を

老朽化による倒壊や衛生問題を引き起こすなど地域に悪影響を及ぼす空き家を特定空家と定義しており、市における現状と特定空家に指定された件数は何件か。また、空き家が問題化する中、解体費用を助成する制度が広がっており鳥取市は補助率3分の1で上限30万円の助成制度がある。助成制度の考えはあるのか。

特定空家は17件、

回答 解体助成制度については調査研究する

過去3年以上継続して水道の閉栓状態の空き家は811件。外部に破損等が認められる空き家が290件。直接現地に赴き調査、確認し特定空家に該当する物件は17件であった。市として空家の適切な管理は所有者の責務と考えている。この原則で助言、指導を行う。助成制度については引き続き調査・研究していく。



にい まさただ
新井 昌禎 (友愛クラブ)

- ・「選ばれるまち 松江」を実現させるための方策について
- ・未来を担う次世代“人財”を育てる取り組みについて
- ・日本一交通事故の少ない県都松江を目指す取り組みについて

市内の児童生徒全員が

質問 夢や目標を持てる指導を行うべきだ

子どもはやったことがないことをやりたがるものであり、子ども達にとって将来の夢や目標は絶対に必要である。夢を持っているからこそ努力することができるし、苦しいことにもチャレンジできる。是非、松江市内の児童生徒全員が夢や目標を持てる指導を行うべきだ。

子どもたちが将来に対する夢や希望を

回答 育むための事業を行っている

将来の夢や目標を持てるようにしていくことは大切なことであり、小中学校では、職場見学や職場体験など積極的に行っている。教育委員会としても、地元企業や事業所の方々に小中学校に派遣し「まつえ『子ども夢☆未来』塾」やトップアスリートや地元プロスポーツ選手などによる学校訪問を実施しており、子どもたちが将来に対する夢や希望を育むための事業を行っている。



ほそぎ あけみ
細木 明美 (松政クラブ)

- ・松江市の水産振興と恵曇港の再開発について
- ・地場産業の振興と地元企業への支援について
- ・道路維持管理の取り組みについて
- ・児童クラブについて

質問 今後いかに漁業者や漁村を守るのか

農業に比べるとかなり予算の少ない水産業。水産業の振興について、儲かる水産業への具体的な対策、6次産業化も含め市長の考えを伺う。鹿島・島根栽培漁業振興センターでの種苗栽培に併せてアワビの養殖を本格的に進め、ブランド化し生産販売をしてはどうか。また古浦西長江線開通に合わせ、海と食の観光地として松江の水産業の拠点である恵曇港の再開発を提案する。

回答 浜に活力を取り戻していくことが重要

捕る漁業と養殖漁業を複合的にやり、水産物の加工や、体験型の観光等を融合した多角経営により女性や高齢者の活躍の場をつくり漁村地域の活性化につなげる。また各地域の実態に即した水産業の振興ビジョンを策定する。現在JFが手掛けている養殖アワビは、今後地元が儲かる漁業として取り組む必要がある。恵曇港周辺の魅力向上は地域の活性化に大きな効果をもたらす。



たちばな よし あき
橋 祥朗 (共産党市議団)

- ・中小・小規模事業者支援と「中・小企業・小規模企業振興条例」制定について
- ・所有者不明土地、家屋の実態について
- ・八束町における「地域密着型特別養護老人ホーム」について
- ・義務教育学校について

質問 義務教育学校、導入急ぐな

義務教育学校は小中一貫校が前提、学校減らし・校長減らしの学校リストラである。八束学園は1年生から9年生までが一つの校舎で学んでいるが、小学校入学式、中学校卒業式だけで、5・6年生のリーダーシップ体験は少なく、気持ちを切り替えて中学校に進学するステップが不十分、発表会や体育祭も1年生から9年生まで一緒に、出番は少なく、時間は長い。小一から多感な中三まで一緒に何の問題もないか、小中別の他学校と比較し何が優れているのかなど疑問。また、父母へのたった一枚の「お知らせ」だけでは、「義務教育学校」制度の説明や理解は不十分で、移行は急ぎすぎ。

回答 課題もあるが義務教育学校へ移行する

小中の交流で相手を思いやるなど成果が上がっている。課題もあるが地域の理解を求めながら、条件の整っている八束学園の義務教育学校への移行を進める。

市役所新庁舎建設を議会がチェック

建て替えが計画されている市庁舎の建設を議会がチェックするため、9名の委員で構成する「新庁舎建設特別委員会」を設置しました。12月7日に開催された委員会では、執行部からこれまでの経緯と今後の予定の説明があり、庁舎整備基本構想の素案が示されました。平成30年9月末日までに基本構想と基本計画を策定する予定です。

本館や別館等を解体し、西棟を残すことを前提に現地建て替えとし、延べ床面積は現在の1.3倍の約2万5千㎡で総事業費は120億円を見込んでいたなどの説明がありました。

市民にとってより良い新庁舎が建設されるよう、今後チェックしていきます。



〈建て替えが計画されている市庁舎〉

新庁舎建設特別委員会 (敬称略、◎は委員長 ○は副委員長)

- | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|------|
| ◎立脇 通也 | ○篠原 栄 | 出川 桃子 | 岩本 雅之 | 柳原 治 |
| 橋 祥朗 | 野々内 誠 | 森脇 幸好 | 津森 良治 | |

常任委員会報告

予算委員会

(12/6・12/15開催)

予算委員会には議案15件が付託され審査しました。議第199号「平成29年度松江市一般会計補正予算(第4号)」については、総務、教育民生、経済、建設環境の4つの分科会で審査をし、12月15日の委員会で各分科会長が審査内容を報告しました。そのうち、全ての付託議案について討論を行った後、採決を行い全て可決しました。

議案の審査内容(主なもの) ~以下のような意見がありました

議第199号「平成29年度松江市一般会計補正予算(第4号)」

賛成

- 行財政改革推進の一環として繰り上げ償還を行い、行財政基盤の整備を実施している。
- 雇用の場の創出や定住につなげるため、松江市への本社機能の移転、拡充を促進する地域経済の活力のための支援をおこなっている。
- 島根半島、宍道湖および中海周辺の広域連携のため、ジオパーク活動のさらなる推進に向けて拠点整備を行い、地方創生の基盤を構築する事業予算である。
- 人づくりや地域経済を支えるなどのために必要な補正予算である。

反対

- 八束小学校と八束中学校を廃止して、義務教育学校とする予算が計上されているが、小中一貫教育の十分な検証がなく一方的な導入は禍根を残す。
- 本社機能移転・拡充促進補助金は、ほかにも一企業に対し、用地取得費、設備投資、雇用奨励助成などの優遇措置があり市民の理解は得られない。

議第212号「松江市手数料徴収条例の一部改正について」

賛成

- 中核市移行に伴い、島根県から移譲される事務手数料を定めるものであり、当然、改正しなければならないものである。
- 中核市移行に伴い、これまで以上に地域の特性や課題に応じた、柔軟できめ細かな施策を実施できるようになり、さらなる住みやすさの向上のための取組みを進めることができる。

反対

- 道州制につながる中核市移行に伴うものであり、市民サービスにはつながらない。



〈八束学園多目的ホールの様子〉

※会議録は松江市議会ホームページでご覧いただくことができます。

委員会行政 視察報告

総務委員会

新しい庁舎の建設に向けて

平成29年10月17日～19日
委員長 柳原 治

- 【千葉県習志野市】『新庁舎建設について』
- 【千葉県浦安市】『新庁舎建設について』
- 【静岡県掛川市】『AIを活用した問合せ対応サービス（実証実験）について』

松江市の「新庁舎建設」に向け、近年竣工した習志野、浦安市役所を視察しました。両庁舎とも、新庁舎建設の事業手法について、施工事業者のノウハウを設計段階から活かす「デザインビルト方式（設計・施工・一括発注方式）」を採用することで、工期短縮やコスト削減を図っていました。浦安市役所の特徴は、太陽光発電、吹き抜けを利用した自然換気、自然採光、地中熱利用など、環境を考慮していることです。また、明るく開放感があり行き先がわかり

やすく親しみや、やさしさを感じる庁舎でした。次に、子育て支援サービスに関する問い合わせ対応に「AIを活用した問い合わせ対応サービス」を三菱総合研究所と自治体で初めての実証実験を行っている掛川市役所を視察しました。住民からの質問の意図をAIで理解して回答するというものでした。



習志野市新庁舎を視察

経済委員会

食と農の力を生かした地方創生の推進

平成29年10月17日～19日
委員長 石倉 徳章

- 【群馬県富岡市】『ガス事業の民営化について』
- 【新潟県新潟市】『食文化創造都市の推進について』
『航空機産業部品製造技術高度化支援事業について』
- 【群馬県前橋市】『「ジョブセンターまえばし」における就職支援について』
『宿泊施設誘致改修支援事業について』

新潟市は人口81万人の大都市です。耕地面積（田）、米生産額ともに全国一、農業生産額は572億円と全国4位の大農業市でもあります。古くより豊かな農水産物に恵まれ、各地での朝市、直売所、農家レストラン、郷土料理の他、酒、みそ製造、米菓、切り餅等食品加工産業も発展していますが、

更に食や食文化に磨きをかけ内外に発信し、産業の活性化や交流人口の拡大を図ることとしています。まさに食と農の力を生かした地方創生の推進です。例として、美しい田園風景を楽しみながら各産地を訪れ地域の旬の食材を使い、その場で料理や収穫体験等の旅をするレストランバスを運行しています。同時に食と花のブランド化を目指し、現在ナシ、イチゴ、すいか、チューリップなどの銘産品化支援もされています。農業・漁業の6次産業化、特産品開発、文化や観光との融合、美しい景観づくりなど大いに参考となる事例であると感じました。

新潟市ではこのほか、航空機部品製造の共同工場を視察しました。

新潟市で航空機産業部品製造共同工場を視察



議会運営委員会

議会の開催方法などを視察

平成29年11月8日～10日
委員長 三島 良信

- 【福島県福島市】『通年会期制について』
『議会報告会、意見交換会について』
- 【福島県会津若松市】『議会における政策形成について』
- 【神奈川県相模原市】『通年会期制について』
『議会改革の取り組みについて』

以前からの検討課題である通年議会制度と議会報告会について、視察を行いました。

松江市議会を含め多くの議会では、定期的に行われる議会の開催を年4回（当市では1回が20日～30日間程度）として、その会期中で集中的に予算案や条例案の審査、調査を行っています。その他に、全国的に取り入れている議会は少数ですが、定例会の会期を1年間として、議会の判断で



教育民生委員会

子育て支援・学生生活のまちづくりを視察

平成29年10月25日～27日
委員長 野津 直嗣

- 【東京都町田市】『地域子育て相談センターの取り組みについて』
- 【石川県金沢市】『学生のまち・金沢の推進について』
- 【富山県富山市】『子育て支援施策の取り組みについて』

子育て環境日本一を目指すための「子育て支援の充実」と、大学など高等専門機関を要する松江としての「学生を活かしたまちづくりの推進」をテーマとして、事前に視察先と松江市の取り組み等を検証し問題点を整理した上で、視察研修を行いました。町田市では「マイ保育園」制度として、在宅育児支援を行い、子育て支援に関するアウトリーチ（市民に手を伸ばす）事業が先進的でした。富山市では子育て支援センター内において、緊急時の病児送迎事業を行い、

医療と連携した保育サービスを展開していました。両自治体共に保護者への情報発信に先駆的に取り組み、母子手帳アプリ化等、松江市でも導入できる案件などがありました。

金沢市では学生の力を活用したまちなか活性化の取り組みを視察しました。今後、本市でもキメ細やかな子育て支援を行う事、また学生とのまちづくりを進める事の必要性を感じました。



富山市の子育て支援センターを視察

建設環境委員会

水道広域化、駅前整備、景観行政を視察

平成29年10月24日～26日
委員長 畑尾 幸生

- 【岩手中部水道企業団】『水道事業の広域化について』
- 【岩手県盛岡市】『盛岡駅西口開発について』
- 【青森県弘前市】『歴史的風致維持向上計画について』

水道事業広域化について「岩手中部水道企業団」を視察しました。花巻市、北上市、紫波町の2市1町で構成され、人口減少に伴う料金収入の減少、施設の老朽化や技術の継承などの課題があり、これらを解決するため事業の広域化による運営の効率化や財政力の強化を目指して取り組んでいました。松江市の水道事業にも広域化の検討をはじめ長期的な経営方針が欠かせないと感じました。

盛岡市では駅前整備事業を視察しました。盛岡駅西口にあった旧国鉄の用地を含む35.6haを土地区画整理事業、

まちづくり交付金事業などを組み合わせ、ランドマークマリオス、民間分譲マンションや公園等を整備し、にぎやかさを創出する空間づくりに取り組んでおり、松江駅や松江城周辺の整備構想を検討する上で参考となりました。

青森県弘前市の景観行政視察では、歴史ある建物の保存に力を入れており、文化財保存と景観の維持を学ぶことができました。



盛岡市マリオス展望台から整備地を視察

必要に応じて会議を開く通年議会の制度があります。この制度について、福島市と相模原市を視察し、運用状況やメリット、デメリットなどを調査しました。視察結果をもとに、本市での議会の開催方法について考えたいと思います。

また、議会の活動を地域に出向いて直接報告し、市民の皆さんと意見交換を行う議会報告会について、福島市と会津若松市の取り組みを視察しました。両市とも開かれた議会を目指して、積極的に市民の意見を聞き、政策づくりへの反映に心がけておられました。テーマ設定や、地区別だけでなく各種団体別に行うなど工夫を凝らした運営手法について、参考とすべき点がありました。



会津若松市の取り組みについて視察

市議会へ行こう！

～あっぱれくんが行く～

議会で行われる本会議や委員会は、どなたでも傍聴することができます。市議会活動や市の施政方針などを実際に見聞きすることができますので、ぜひお出かけください。今回は本会議を行う「議場」へ、あっぱれくんが初めての傍聴にやってきました。



1 市役所正面玄関から、河内議会広報等委員長が案内してくれるぞ。いざ！



2 正面玄関を入ってすぐの階段で三階まで上がるのだな。エレベーターもあるぞ。



3 「傍聴者入口」は階段を登りきってすぐ正面のところなのだ。



4 入口に入って、受付票に住所や氏名を書いて「受付票箱」に入れるのじゃな。なんと！ひざ掛けやマスクも置いてあるぞ。



5 さあ、入場じゃ！議場が全て見渡せるのお。車いすで入れるスペースもあるのじゃな。

初めての議会、今まで知らなかった取り組みを知ることが出来て、わが町松江市の市政がぐんと身近に感じるぞ。あっぱれじゃ！

百聞は一見にしかず
じゃな！



Q A

Q 予約はいるの？

A 予約はいりません。団体が傍聴される場合は、資料の準備の都合上、事前に議会事務局にお知らせいただけると喜びます。

Q 赤ちゃんや子どもは連れて行っていいの？

A お子さま連れでも大丈夫です。ただし、お子さまが騒がれたりなど議会の進行の妨げになる場合は、一旦退出をお願いすることがあります。

Q 写真やビデオ撮影はしてもいいの？

A できますが、フラッシュなどの発光装置を用いた写真や動画の撮影はお断りしています。また、議長が必要と認めるときは、制止することがあります。

2月定例会日程

月	日	曜日	会議名
2	21	水	本会議（会期の決定、提案説明）
	26	月	本会議（一般質問）
	27	火	本会議（一般質問）
	28	水	本会議（一般質問、議案質疑、委員会付託）
3	1	木	予算委員会（質疑、分科会分担・委託）
	2	金	総務委員会・予算委員会総務分科会
	5	月	総務委員会・予算委員会総務分科会
	6	火	教育民生委員会・予算委員会教育民生分科会
	7	水	教育民生委員会・予算委員会教育民生分科会
	8	木	経済委員会・予算委員会経済分科会
	9	金	経済委員会・予算委員会経済分科会 建設環境委員会現地視察
	12	月	建設環境委員会・予算委員会建設環境分科会
	13	火	建設環境委員会・予算委員会建設環境分科会
	16	金	予算委員会（分科会長報告・質疑、討論、採決）
22	木	本会議（委員長報告・質疑、討論、採決）	

議会事務局 TEL 55-5432

編集後記

本誌がお手元に届くのは、「三寒四温」の言葉どおり春の気配が感じられる頃。2月定例会も始まっているものと思います。松江市はこの4月から「中核市」としてスタート。11月定例会では、関連する条例などを多数可決しました。保健所業務を中心に、県が担当していたたくさんの仕事を、松江市が引き継ぐこととなります。市の責任範囲が広がるということは、市議会の責任がさらに重くなるということ。「市議会だより」の役割もまた、一層大切になります。皆さんとの架け橋としてお役に立てるよう、私たちも心新たに議会の様子を丁寧にお届けします。

議会広報等委員会委員 川井 弘光

「議会だより」への 皆様のご意見をお寄せください

いろいろなご意見をいただいております。ご意見については、委員会の場で検討させていただきます。今後の紙面づくりの参考とさせていただきます。

〒690-8540 松江市末次町86
議会広報等委員会(松江市議会事務局)

電話 (0852) 55-5433
ファックス (0852) 55-5533
議会事務局メールアドレス
giji@city.matsue.lg.jp



ホームページアドレス
http://www1.city.matsue.shimane.jp/gikai/